



いろんな生き方があっていい！いつか見つかる“自分の道”

## 特定非営利活動法人 アンガージュマン・よこすか

学校に行けない・行かない子どもの数は、全国で約13万人。これは、全国公立小・中学生の1.2%にあたり、83人に1人が不登校という計算に。神奈川県では約1万人が該当し、小学生では250人に1人、中学生では28人に1人が不登校といます。『特定非営利活動法人アンガージュマン・よこすか』（横須賀市）では、不登校の子どもたちには、居場所の提供と学習指導でサポート。引きこもりの若者には、就労支援に取り組んでいます。

### 商店街のチカラ

**理** 事長の滝田衛さんは、元中学校の教員。市の教育委員会が実施する適応指導教室で、不登校の生徒の学習支援に携わったことをきっかけに2004年からNPOでの活動を開始しました。「学校に行かなくなる理由は、本当にさまざまです。いじめがきっかけだったり、軽度の発達障がいや原因で勉強がついていけなかったり。中には、本人にもはっきりとした理由が分からないことだってあります。ただ、“進路が実現で

きなくなったこと”に、不安を抱くことは共通しています」。

**社** 会はいつの間にか、高校・大学に進学しサラリーマンになる、という考え方を子どもたちに植え付けてしまいました。『学校に行けなくなった自分は、その夢が遮断された』と苦しむ子が多く、将来への不安を理由に引きこもる子もいるのです。でも実際は、いろんな仕事があるし、いろんな生き方もある。進学してサラリーマンになることが“正解”なのではなく、自分の生きる道を見つければ、それでいい。ここに通う子には、このことに気づいてもらいたいです」。

そんなメッセージは、商店街の真ん中に拠点を構えたことにも込められています。「商店街には、職業を通じて多様な生き方をしている大人が大勢います。それが、子どもたちの固定概念を崩すことにつながれば」と。

**さ** らに、「売る人と買う人の交流があって成り立つところですので、人をくっつける力があるのも魅力」といいます。「初めは挨拶からはじまる交流も、ボランティアやイベントに参加することで、街の一員になれる。人を避けがちの子やコミュニケーションが下手な子もいますが、徐々に慣れていくようです」。

- 住所：〒238-0017 神奈川県横須賀市上町2-4
- 電話：046-801-7881 FAX 046-801-7881
- メール：engagement@angelicsmile.com
- HP：http://engagement.angelicsmile.com/
- 主な活動 【フリースペース】月～金曜日、10時～18時  
利用料21,000円/月 ※学校出席扱い
- 【学習サポート】月～金曜日、13時30分～21時  
授業料3,360円(90分)～  
指導教科：国語・算数(数学)・英語・社会・理科 ※学校出席扱い
- 【就労支援】年2回(5ヶ月間プログラム)  
利用料31,500円/月 ※フリースペース利用込
- 【相談・カウンセリングなど】不登校・引きこもり・発達障がい・子育てなどの相談  
6,300円/回または105,000円/年



事務局長の島田徳隆さん



理事長の滝田衛さん

### コンビニ前のタムロ感覚で

**学** 校へ行かない子どもたちへは、フリースペースと学習指導で支援。参加すると学校出席とみなされます。フリースペースでは、パソコンやピアノ、本やゲームなど、それぞれが自由な時間を過ごしています。「コンビニの前で、無意味にタムロしている子を見かけますが、そんな感覚でフリースペースに集まってきてくれたらいいな。ここでは誰も、強要も否定もしません。仲間とゆっくり、やりたいことをやればいい」。

一方、学習サポートも充実。集団の中で学ぶのが苦手な子のため、個別指導が基本。指導教科は、基本5教科で、20人ほどいる講師スタッフが、本人のレベルに合わせて、学習を進めています。「学校復帰を積極的に促すことはありませんが、自信がつくことで進学を希望したり、学校に戻って行く子も多いですね」。

### 地域の協力で就労支援活動

**2** 006年からは、引きこもりの若者向けに、就労支援にも力を入れています。きっかけは、“販売士”の資格取得を目指して勉強を開始したこと。「7人が受験し、5人が合格しました。せっかくなので、活かせる場を探しているときに、隣町の本屋さんから話をいただき、事業を引き継いだのです」と話すのは



### 『生きてればいい』の気持ち

子どもが不登校や引きこもりになると、親としてはどうにかしたいもの。でも、理由を問いただしたり、責めたり、強要したりしてはいけません。生きていけばいい。生まれたときのあの感覚を思い出し、接することが子どものプレッシャーを減らすことにつながります。家庭内で抱え込むことなく、まずは相談を。母親の会、父親の会など同じ悩みを持つ大人同士でつながることも大切です。

就労支援責任者の島田徳隆事務局長。「『はるかぜ書店』は、就労支援事業(キックオフプロジェクト)で職業体験をしたメンバーで運営しています。そのほか、商店街で年2回実施するガラポン抽選会の運営を担当。クリスマス時期のケーキ屋さんの店番や、年末年始の酒屋さんの配達など、商店ならではのオフアもあります」。

「アンガージュマンとは、社会参加という意味。どんな形でもいいので、社会とのつながりを持ち、社会参加できることを目指しています。ここで、十分なエネルギーを溜め込んで、いつか自分の生きる道へと帰っていければ、いいですね」。

